

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 3 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03250

研究課題名(和文) 戦間期の日本における都市農村関係の社会地理学的研究

研究課題名(英文) Social geographical research on urban-rural relations in Modern Japan

研究代表者

遠城 明雄 (ONJO, Akio)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：00243866

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「都市政治生態学」という視点から、戦間期の日本における都市・農村関係の転換の特徴を検討することであり、大きく以下の二点を調査した。

- (1) 地方都市の屎尿処理をめぐる都市・農村の関係の変化や処理の市営事業化の限界を明らかにした。
- (2) 地方都市での都市計画と区画整理事業をめぐる行政、資本家、地主、地域住民など諸社会集団の対立と協働の背景を明らかにし、当該期の都市拡大と都市空間の再編が諸主体の地域意識、社会関係、権力構造などに及ぼした影響を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

- (1) 戦間期の広島市や佐世保市など地方都市を対象に、都市における屎尿処理の状況を分析することによって、当該期の都市・農村関係の変化、農民意識の変容および都市行政の再編成過程などに関して、新たな知見を得ることができた。
- (2) 福岡市や呉市などを対象に、都市計画や土地区画整理事業の進行過程を分析することによって、地主、資本家、住民などをめぐる都市内部における社会関係や権力構造、地域意識の変化などについて、新たな知見を得ることができた。以上の知見は、戦間期日本の地域社会構造の理解のみならず、現代都市における企業、行政、住民の関係の考察にも有効なものであると思われる。

研究成果の概要(英文)：This project aims to research some characteristics of the change of urban-rural relationships between two world wars in Japan from a urban political ecological point of view. This research focused on two issues. At first, I investigated the issues regarding the treatments of human excreta and shed some light on the transformation of urban-rural metabolic circulations. Secondly, I investigated the contradictory process of urban planning and urbanization and analyzed its effects on place making, social relations, and power relations among social groups (bureaucrat, capitalist, land owner farmers, and local residents).

研究分野：社会・政治地理学

キーワード：都市政治生態学 社会地理学 都市農村関係 屎尿処理 都市計画

1. 研究開始当初の背景

(1)1980年代以降、日本近代史、建築・都市計画史、社会・政治地理学などの諸分野において、近代都市史研究は大きな発展を遂げてきた。特に社会資本開発や新たな空間の生産による都市内部の政治・行政・地域社会の再編成に加えて、都市化や工業化による都市農村関係の変化に関する研究にも関心が寄せられるようになった。

(2)1990年代以降、アングロサクソン圏の地理学、人類学、社会学において「都市政治生態学」が提起され、都市における自然やインフラストラクチャーの社会・政治的意味や「コモンズ」としての役割に対する関心が高まった。しかし日本ではこうした視点からの研究は少なく、また海外でも都市農村関係に着目した経験的研究は少なかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「都市政治生態学」という視点から、戦間期の日本における都市農村関係の転換を、相互に関連する以下の二つの問題を通して明らかにし、昭和前期の「総力戦体制」における社会・空間の特徴を理解するための枠組の構築を目的としている。

都市部での尿尿処理問題をめぐる都市と農村の対立の構造とその背景。

都市計画および土地区画整理事業をめぐる種社会集団・階層の対立とその再編成。

また、以上の経験的研究から得られた知見を理論研究にフィードバックすることで、「都市政治生態学」研究のさらなる展開に貢献する。

3. 研究の方法

地方都市(広島県広島市と呉市、長崎県佐世保市と長崎市、山口県下関市、福岡県)を主なフィールドとして、各地の公文書館や図書館を中心に国立国会図書館や国立公文書館において、文書資料や新聞資料などの収集を行った。また必要に応じて地元の古老などへの聞き取りも実施した。このほか「都市政治生態学」や「廃棄物の地理学・環境史」の近年の研究動向について検討し、研究視角の見直しを絶えず行った。

4. 研究成果

(1)尿尿処理問題に関して、1920年代以降、フィールドとしたすべての都市・地域において、農民による尿尿汲み取り拒否と汲み取り代値下げ運動が継続的に行われていたこと、ただし経済の動向などにより尿尿の肥料利用が再び高まる場合もあることなどが明らかとなった。

個別の都市では、佐世保市の場合に、都市内部において行政と地域有力者が処理の市営事業化をめぐって対立し、周辺農村を組織した市営事業化が一時的にとん挫し、進展しなかったことや尿尿処理をめぐって住民の不安と不満が高まり、都市の社会・政治構造にも一定の影響を及ぼしたことが明らかとなった。また佐世保市の海軍施設の場合、この時期に尿尿処理が販売から随意処理に変更されており、この問題が1920年代以降の軍隊と地域社会の関係の変化を考察する上で、一つの有効な視点になりうることが指摘できる。

広島市の場合に、農民側が値下げ運動を通じて新たな集団・階級意識を獲得する一方で、行政は農会などを通じて新たな尿尿の販売路を開拓し、それが尿尿の販売圏の拡大につながったことなどが、新たな知見として得られた。農民運動については、福岡市周辺の組合活動においても同様の事例が確認でき、この問題を通じて、不在地主を含めた都市農村の対立が農民運動の展開に与えた影響に関して、再考察できるように思われる。

このほか、下関市や長崎市でも農民による値下げ運動と市営事業化が、衛生問題と財源問題の両面で当時の市政の一大問題となっていたことが確認できた。

(2)都市計画および土地区画整理事業に関して、全体としてその実施をめぐってこれまでの地域支配構造と「公共」の論理がしばしば対立し、それが事業の推進に影響を与え、その結果不均等な地域発展の一因になっていたことが明らかとなった。

個別の都市では、福岡市の場合に、市周辺部で実施された複数の土地区画整理事業の開発過程をめぐって、受益地域と都市全体の負担の社会・空間的不平等が市会で議論されるようになり、それが従来の市の政治支配構造にも影響を与えたことが確認できた。また小作人の立ち退き反対運動も活発化しており、都市開発の強引な進め方が都市周辺農村部の不満を高めていることが明らかとなった。

呉市の場合、「軍港都市」という性格上、都市計画の実施とその負担をめぐって、軍部の意向の影響を受ける場合があり、それが都市の政治構造を部分的に規定していたことなどが、明らかとなった。また、軍港特有の社会資本整備に対する財政負担が大きな都市問題となっており、それが呉市をはじめ複数の軍港都市間で、共通の都市社会問題として認識されていたことが確認できた。

(3)上記の経験的研究を通じて、都市政治生態学の近年の重要な研究課題である、「都市とその

外部の関係性」および「物質と人間の絡み合いの諸相」について、新たな事例を提示することができた。この点については、特に尿尿という「物質」のもつ二面性(経済的価値と文化的忌避・衛生上の危険)に着目して、物質と意味の関係の再考を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 23
2. 論文標題 尿尿問題からみた都市・農村関係の変容 1920年代から1930年代の広島市を中心にして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 37 - 51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 ONJO Akio	4. 巻 12
2. 論文標題 The Politics of Human Excreta; Urban-rural metabolic rift in Modern Japan, 1920s	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Contributions to the History of Geographical Thought 12	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 156
2. 論文標題 一九一三年下関市の騒擾について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 43 - 89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 69
2. 論文標題 書評 内藤辰美著『北の商都「小樽」の近代』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 113 114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 3299号
2. 論文標題 書評 町田祐一著『近代都市の下層社会』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 70
2. 論文標題 書評 ミシュル・リュソー著『超 場所 世界化の新しい地理』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 28 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Akio Onjo
2. 発表標題 Social relations as urban infrastructure
3. 学会等名 8th International Conference of Critical Geographers Athens (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akio Onjo
2. 発表標題 Renkichi Kodera: Evolution, Anarchism and Social Geography
3. 学会等名 IGU Regional Conference 2018, Quebec, Canada (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akio Onjo
2. 発表標題 After the Excitement of War
3. 学会等名 25th International Congress of History of Science and Technology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠城明雄
2. 発表標題 戦間期の地方都市における屎尿処理問題 呉市と佐世保市を事例として
3. 学会等名 人文地理学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 『現代地政学事典』編集委員会編(高木彰彦、岩下明裕、山崎孝史、遠城明雄ほか)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888頁
3. 書名 現代地政学事典	

1. 著者名 大城直樹・遠城明雄 翻訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 441頁
3. 書名 デヴィッド・ハーヴェイ 『パリ モダニティの首都』	

1. 著者名 B. Schelhaas et al.eds., A. Onjo et al	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 140p.
3. 書名 Decolonising and Internationalising Geography	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------